

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない四国地域の中核拠点病院の機能評価と介護療養体制整備

課題番号：24HB1003

【分担研究5】拠点病院・高齢者施設・福祉施設における HIV 診療や受け入れの実態調査

研究分担者：末盛 浩一郎（愛媛大学医学部 准教授）

研究要旨：

四国地域にはブロック拠点病院が存在しないものの、HIV 患者数は増加傾向にあり、全国で最も高齢化が進んでいる地域の一つであることから、HIV 患者の高齢化も顕著に進行している。今後、HIV 患者に対する介護および療養体制の整備は喫緊の課題であるが、現状では中核拠点病院への患者の集中が見られ、各県内のエイズ拠点病院における機能および介護・療養体制は必ずしも十分とは言えない。本研究により、比較的医療資源の乏しい、いわゆる「地方」においても、HIV 診療体制および介護・療養体制の充実と地域間における均てん化が促進されることが期待される。

令和 6 年度の研究成果として、「四国地方におけるエイズ中核拠点病院の HIV 患者のレジストリー研究」を構築した。これにより、四国地域における HIV 診療および多職種連携の実態を把握することが可能となり、各中核拠点病院の機能評価および体制の改善、ならびに連携体制の再評価を行うための重要な基盤となることが期待される。さらに、得られた知見は四国地域に限らず、同様の課題を抱える全国の地方地域においても有用な情報を提供し得るものと考えられる。

研究分担者

高田清式・愛媛大学医学部附属病院・特命教授

山之内純・愛媛大学医学部附属病院・准教授

木原久文・愛媛大学医学部・助教

武内世生・高知大学医学部・准教授

内田俊平・香川大学医学部附属病院・助教

尾崎修治・徳島県立中央病院・医療局長

三木浩和・徳島大学医学部附属病院・講師

乗松真大・愛媛大学医学部附属病院・副薬剤部長

若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師

中村美保・高知大学医学部附属病院・看護師

池田聖・愛媛大学医学部附属病院・社会福祉士

A. 研究目的

四国地域にはブロック拠点病院が存在しないものの、HIV・エイズ患者は多く、当院においてもこれまでに累計 220 名以上の患者を治療している。近年、四国地域における HIV・エイズ患者数は増加の一途をたどっている。中核拠点病院に患者が集中する中、他の拠点病院においても診療・連携

一方、これらの実情が明らかとなつてい
るにもかかわらず、四国地域全体における
HIV 患者の詳細な実態や、同地区における
HIV 診療体制および医療機関間の連携状況
については、十分に解明されていなかった。
四国地域においては、HIV 患者が中核
拠点病院に集中して受診する傾向が認めら
れることから、同地区の中核拠点病院に通
院する患者を対象としたレジストリーを構
築することで、当該地域における患者の実
態把握が可能になると考えた。これに基づ
き、「四国地方におけるエイズ中核拠点病
院の HIV 患者のレジストリー研究」の構
築を企図したものである。本研究により、
中核拠点病院をはじめとする拠点病院、高
齢者施設、福祉施設における HIV 診療体
制および患者受け入れの実態が明らかにな
ることが期待される。また、これにより、
本研究の最終目標の 1 つである、拠点病院
や福祉療養療養への円滑な移行の実現に寄
与することが見込まれ、学術的ならびに社
会的に極めて意義深い研究であると位置づ
けられる。

本研究では、分担研究者と協力のもと、

[illegible]

図1 「四国地方におけるエイズ中核拠点病院のHIV患者のレジストリー研究」の研究実施計画書

(倫理面への配慮)

本研究では、HIV診療における定期受診時に、既に臨床上実施が予定されている血液検査の結果を用いるため、新たな検査等とは実施せず、説明および同意の取得に代えてオプトアウト方式を採用する。研究内容については、愛媛大学医学部附属病院第一内科および臨床研究支援センターのホームページ上に情報公開を行い、対象者が研究への参加を拒否する機会を確保する。本研究は、当院の倫理審査委員会において審査・承認を受けた上で実施する。なお、他県においては、各医療機関の方針に従い、それぞれの施設における倫理審査・承認を経て実施する。

C. 研究結果

「四国地方におけるエイズ中核拠点病院のHIV患者のレジストリー研究」が、参加するすべての医療機関において倫理的承認を取得した上で実施された。2023年には、合計333例の患者データが収集され、2024年分については現在集計作業中である(図2)。これらのデータを統合した最終的な結果および解析については、本年度の日本エイズ学会学術集会において発表を予定している。



図2 「四国地方におけるエイズ中核拠点病院のHIV患者のレジストリー研究」における2023-4年の各医療機関の結果(一部抜粋)

D. 考察

四国地域における拠点病院、高齢者施設および福祉施設における HIV 診療ならびに患者受け入れの実態については、これまで十分に明らかにされてこなかった。先行研究においては、他県の中核拠点病院との連携の過程で、「中核拠点病院への患者集中」、「拠点病院が十分に機能していない地域の存在」、「患者の高齢化」、「高齢者施設・福祉施設への患者移行」といった課題が指摘されていた。とりわけ四国地域においては、中核拠点病院に患者が集中する傾向が顕著であることから、当該地域に所在する全中核拠点病院における患者情報の網羅的把握および分析が、本研究の評価および目的達成に資するものと判断し、「レジストリー研究」という研究手法を採用するに至った。

四国地域における HIV 診療は、患者数が限られていることから、HIV 診療を専従とする医師は存在していないのが現状である。各医師は、血液内科、総合診療科、膠原病内科など、それぞれの専門領域を有しつつ、HIV 診療・連携を行っている。同様の状況は、他の医療職種においても概ね当てはまる。本研究は、各医療機関における HIV 診療体制および多職種連携の現状を再評価する契機となり、同様の課題を抱える他の医療機関との比較検討を可能とする点において、各中核拠点病院の機能評価および体制改善に資するものと考えられる。さらに、これらの知見は四国地域全体の HIV 診療および連携体制の向上にも寄与することが期待される。また、HIV 患者の高齢化は日本全国に共通する重要な課題であり、四国地域と類似

した状況にある地方も少なくないと推察されることから、本研究の成果を全国へ発信することは、今後の HIV 診療体制の整備や政策立案においても意義深いと考えられる。

E. 結論

拠点病院、高齢者施設、福祉施設における HIV 診療および受け入れ体制の実態を把握することを目的として、「四国地方におけるエイズ中核拠点病院の HIV 患者のレジストリー研究」を構築した。本研究により四国地域全体における HIV 診療体制および多職種連携の質的向上が期待されるとともに、その成果は全国の医療・福祉関連機関に対しても有益な情報を提供し得ると考えられる。以上の点から、本研究は学術的および社会的観点の双方において、極めて意義深い研究活動であると位置づけられる。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Nakamura S, Hara K, Kobayashi T, Sumitani R, Oura M, Maeda Y, Sogabe K, Yagi H, Takahashi M, Fujii S, Harada T, Bando Y, Abe M, Miki H: Toxoplasmic encephalitis with high 201Tl uptake and retention mimicking malignant lymphoma in a patient with human immunodeficiency virus infection. *Parasitol Int.*101:102895,2024.
- 2) Inoue Y, Tenshin H, Teramachi J, Sumitani R, Oda A, Maeda Y, Oura M, Sogabe K, Maruhashi T, Takahashi M,

Fujii S, Nakamura S, Miki H, Hara T, Endo I, Kagawa K, Ozaki S, Hiasa M, Harada T, Abe M: Elotuzumab-mediated ADCC with Th1-like Vγ9Vδ2 T cells to disrupt myeloma-osteoclast interaction. *Cancer Sci.* doi:10.1111/cas.16401,2024.

3) Fujishita S, Inoue A, Watanabe H, Nishikawa M, Taniwaki M, Matsumoto S, Ochi M, Suemori K, Watanabe A, Kitazawa R, Shigekawa S, Ohyagi Y, Kunieda T: A case of immunocompetent intracranial cryptococcoma in which intraoperative rapid pathological diagnosis and polymerase chain reaction led to early treatment: What to know to avoid misdiagnosis as brain tumor. *Surg Neurol Int.* 3;15:330,2024.

4) Imataki O, Uchida S, Uemura M: Metabolic pitfall of pseudoprogession after epcoritamab treatment. *EJHaem.* 16;5(6):1346-1347,2024.

5) Kihara H, Yamamoto H, Shikata H, Kaneko M: A Case of Sepsis in Which *Escherichia coli* and *Fastidiosipila sanguinis* Were Isolated and Identified From a Blood Culture. *Cureus.* 16(8):e66159,2024.

6) Sasaki Y, Yamanouchi J, Takenaka K: A Novel Splice Donor Site Mutation Leading to Inherited Type I Protein S Deficiency. *Ann Vasc Dis.* 25;17(2):179-182,2024.

2. 学会発表

1) 中尾綾、小西達矢、河邊憲太郎、加藤潤一、越智俊元、末盛浩一郎、山之内純、竹中

克斗. HIV 関連神経認知障害 (HAND) における Iowa gambling task の有用性の検討. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

2) 堀江健太、末盛浩一郎、桑原希、中川進平、乗松真大、中尾綾、宮崎雅美、若松綾、高田清式、竹中克斗. 複数の日和見感染症を合併し難治性病態を呈した AIDS 症例に対し、内科・外科治療を行い救命できた一例. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

3) 早川幸子、川田道子、加嶋真恵、吉田陽子、大田佐代子、小田優子、住吉健太、内田俊平、今滝修、北岡陸男. 脂質異常症を合併した患者に HIV ケアチームで継続支援を行った一症例. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

4) 住吉健太、田中裕章、川田通子、加嶋真恵、吉田陽子、大田佐代子、小田優子、早川幸子、内田俊平、岩瀬孝志、小坂信二. 服薬アドヒアランス向上を目的に DTG+ABC+3TC レジメン 1 日 2 回服用から 1 日 1 回服用へ変更した小児 HIV 感染児の一例・続報. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

5) 中村信元、宮上慎司、荒井優子、泉侑希、岡本秀樹、北上早紀、後藤さおり、後藤由香、菅俊行、高橋真理、富永誠記、矢野由美子、三木浩和. 蛋白尿を契機に診断された HIV 関連免疫複合腎臓病合併キャスルマン病の一例. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

6) 中村美保、向井三穂子、前田サオリ、渡部恵子: HIV 感染症患者のサポート形成支援 (人的支援) 一長期療養における他者への病名の打ち明け支援について考えるー. 日本エイズ学会認定講習会 (看護師). 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

H. 知的財産権の登録状況 (予定を含む)

該当なし